

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目: 基盤研究(C)

研究期間: 2007 年度～2010 年度

課題番号: 19520524

研究課題名(和文): アクションリサーチによる継続的な教員研修の実態調査—個人実践からカリキュラム改革

研究課題名(英文): Research on Continuous Professional Development through Action Research: From Individual Teacher Learning to Curriculum Development

研究代表者: 名古屋外国語大学・外国語学部・教授・佐藤 一嘉

研究者番号: 40329868

研究代表者の専門分野: 外国語教授法、教師教育、第2言語習得研究、カリキュラム改革

科研費の分科・細目: 言語学・外国語教育

キーワード: 教員研修、アクションリサーチ、カリキュラム改革、英語指導力、学校改革

## 1. 研究計画の概要

名古屋外国語大学が実施している英語教員ワークショップ(2005年度8月から毎月開催)に参加している東海地区の中・高校の教員を対象とする。このワークショップの目的は、アクション・リサーチによる継続的な教員研修によって教員の指導力の向上を図り、“英語が使える生徒”の育成を目指すことである。また、この取り組みは、2006年度に、文部科学省から英語指導力開発ワークショップ事業の担当大学として補助を受けている。教師は授業改革をするため、アクション・リサーチのテーマを設定し、授業案を作成する。専門的なアドバイスを受け授業案を修正した後、毎月実践報告をする。その都度、継続的に大学の教員や仲間からもアドバイスを受け、さらに、修正を加え実践を続ける。また、年間3回の合宿に参加し、オリエンテーション、中間発表、成果発表を行っている。以下、当該期間内における具体的な目的を述べる。

(1) 3年間にわたる長期的な実態調査によってアクション・リサーチによる継続的な教員研修の成果を明らかにする。

(2) アクション・リサーチが現場のカリキュラム改革にどのような影響を与えるのかを明らかにす

る。

(3) 文献研究により、諸外国(北米、欧州、オセアニア、アジア)の先行研究の課題を明らかにする。また、オーストラリアについては、助言者の協力を得て実地調査を行い、最新の研究から学んで、日本におけるアクション・リサーチのモデルを提案する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 文献研究: 日本及び諸外国の外国語教師によるアクション・リサーチの先行研究の調査を実施した。

(2) 海外調査: 平成 19 年度は、オーストラリアのマクオーリー大学を訪問し、助言者である Burns 教授からアドバイスを頂いた(2月24日～3月10日)。また、平成 20 年度は、オーストラリアのクイーンズランド大学および、マクオーリー大学で文献研究をした。助言者である Burns 教授(マクオーリー大学)から、再度、貴重なアドバイスを頂いた(8月10日～8月19日)。

(3) 国内調査: 5月にオリエンテーション合宿を行い、アクション・リサーチに継続的に参加できる教員に調査を依頼した(15名)。初めに、Lightbown & Spada (2006)の “Popular opinions about language learning and teaching”を使い、

対象者が外国語学習についてどのように考えているのかアンケート調査をした。アクション・リサーチのテーマ設定、問題解決の対策についてアドバイスをし、対象教員に具体的なレッスンプランを作成するよう依頼した。対象教員はレッスンプランに基づいて授業実践をし、毎月実践報告を行った。そして、毎月開催されるワークショップで得た新しいアイデアや実践報告についての専門的アドバイスを基に、さらにレッスンプランを改良し、次の実践報告を行った。8月に中間発表、そして、3月に最終発表を行った。毎月の実践報告は研究者がデジタルDVDカメラで撮影した。また、対象者の実践報告をファイルに保管し、気がついた事をフィールドノートに記録した。年度の最後にアンケート調査を再度行い、インタビュー調査を実施した。インタビュー調査の内容は、アクション・リサーチの効果、授業における問題点、カリキュラム改革への影響、その他の課題などである。インタビューは、ICレコーダーに録音した。

### 3. 現在までの達成度

これまで3年間、順調にデータ収集ができた。特に、オーストラリアのマクオリー大学を訪問し、助言者であるBurns教授からアドバイスを頂いた。また、Burns教授から名古屋外国語大学が実施しているアクション・リサーチによる継続的な教員研修について高い評価を受けた。Burns教授が2009年に出版したアクション・リサーチの本“**Doing Action Research in English Language Teaching: A Guide for Practitioners (Esl & Applied Linguistics Professional)**”にも、この研究成果が報告されている。一つ残念なことは、2年間の調査結果をまとめ、5月28-30日にアメリカ、ジョージワシントン大学で開催された第6回外国語教育国再研修大会(Six International Conference on Language Teacher Education)で、“Collaborative Action Research for Teacher and Curriculum Development”というタイトルで発

表する予定であったが、豚インフルエンザの影響で、発表を辞退した。

#### 4. 今後の研究の推進方策

22年度は、これまで3年間研究してきたデータを分析し、9月にオーストラリア、メルボルンで開催されるアクション・リサーチの国際研修集会で発表する。また、国内では、11月にJALTの学会で発表する。また、国内調査として、アクション・リサーチに基づいて、カリキュラム改革をしている岐阜県立各務原高校で調査を継続する。2年前に県の研究校に指定され、佐藤が助言者の依頼を受け、月に2回訪問している。

#### 5. 代表的な研究成果

##### (1) 雑誌論文 (計2件)

① 著者名; Nancy Mutoh, Kazuyoshi Sato 他  
論文標題

Collaborative action research: Teacher and curriculum development

雑誌名; JALT 2008 Conference Proceedings

査読の有無; 有

発行年; 2009

最初と最後の頁; 53-66

② 著者名; Kazuyoshi Sato 他

論文標題

Focus-on-form instruction (FFI) and its effect on student learning

雑誌名; JALT 2008 Conference Proceedings

査読の有無; 有

発行年; 2009

最初と最後の頁; 521-534

##### (2) 学会発表 (計3件)

① 発表者名; Kazuyoshi Sato

発表標題; Challenges of Action Research: Teacher and Curriculum Development

学会等名; AILA(15<sup>th</sup> World Congress of Applied linguistics)

発表年月日; 平成20年8月26日、ドイツ、エッセン

② 発表者名; Kazuyoshi Sato 他

発表標題; Collaborative Action Research: Teacher and Curriculum Development

学会等名; JALT (全国語学教育学会)2008 Conference

発表年月日; 平成20年11月2日、東京

③ 発表者名; Kazuyoshi Sato

発表標題; Form-Focused Instruction and its Effect on Student Learning

学会等名; JALT (全国語学教育学会)2008 Conference

発表年月日; 平成20年11月3日、東京